

CAL研究会 「長期型レンタカー」ミーティング

CAL研究会は3日、京都市内で「長期型格安レンタカー」企画ミーティングを開催した。約40人の会員らが参加。来年夏にサービス開始を目指している長期型格安レンタカーの内容について話し合った。

冒頭生川正洋LCL役員は「SSを取り巻く状況は変化している。このままではだめになる。収益向上の課題達成のために意見を述べてもらいたい」と話した。

智頭石油の米井哲郎社長は「構想しているのは、現在販売している格安レンタカーの長期版。長くお客さまに利用していただき安定収入を得られる。皆さんの意見を聞いて内容を詰めていきたい」と趣旨説明。

ミーティングでは、「期間労働者など長期滞在者に有効」や「安くて長く使える点が強み」など活発な意見交換がなさ



未来に向け活発に意見交換された。今後來年開催予定の研究会でも意見を募集し詳細を決める。

「免許返納アドバイザー」紹介

ミーティング後、会員会社が取り組みを紹介。

筑豊太平石油の高山幸嗣社長は同社が昨年8月から取り組んでいる「運転免許証返納アドバイザー」を紹介。

高山社長は「高齢者が免許を返納せ

ず、家族が困っている事例がある。そのような高齢者に寄り添い、話を聞いて免許を返納してもらうよう説得するのが運転免許証返納アドバイザー。警察署などへの返納手続きに同行する。乗っていた車の買取り、高齢者用電動車いす（シニアカー）の販売にもつながる」と説明。

山下石油の山下真司社長は同研究会が進めている中古車販売支援機能「CALマート」の重要性を強調。「車の販売手法が変化してきている。今後中古車はネット販売が主流となる。在庫を多く持つ店が勝ち残る。そのためにも今から新車のリース販売に注力し、リース後の買い取りで将来の在庫を確保していただきたい。CALマートは加盟店の在庫情報を共有できるほか、専用サイトも立ち上げる予定。ぜひ活用してもらいたい」と呼びかけた。